

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援ルームぶらすup 金山ルーム		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和7年年 1月 14日		～ 令和7年年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達に応じた個別・小集団での療育支援や機能訓練を行なっていること。	子どもの発達状況や年齢に合わせたグループをつくり、個別療育では「できた」という体験を積み重ね、集団療育では社会性やコミュニケーションスキルを身につける。また機能訓練では運動機能の改善や言語発達能力の向上を促し、日常生活をサポートしている。	機能訓練、個別・集団療育が連携してよりよい支援を提供できるように情報交換やミーティングを密に行い支援の質の維持向上に努める。
2	理学療法士・言語聴覚士等、専門性の高い職員を常勤で配置していること。	子どもの疾患や特性に合わせて、より専門性の高い視点で問題をピックアップし、原因を把握し解決手段を検討する。子どもや保護者のニーズに合わせて有効性を確認しプログラムを遂行する。	アセスメントによる結果から、子どもの得意・不得意は何か、どこに困り感を抱えているのか職員全員が共通理解を持つよう研修やOJT等を通して研鑽を積む。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	設備・環境面	建物の構造上、完全なバリアフリー化が難しく、玄関に手すり等は設置されているものの、部屋の移動に不便さがある。	より本人の身体的能力や発達状況に合わせた机や椅子、教材を提供できるよう検討し、充実を図っていく。
2	地域との交流	本人の発達状況に合わせて、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流やその他地域で他のこどもと活動する機会を提供が難しい。	地域の子どもと活動する機会については、保護者からのご要望や本人の発達状況に合わせて、必要性に応じて今後検討していく。
3			